

「話すこと・聞くこと」領域における授業実践例

① 学年・単元名 第3学年「山小屋で三日間すごすには」

② 単元のねらい

「条件や話し合い方を確かめてグループで話し合い、出た意見を分類しながら、考えを広げることができる。」

③ 指導の工夫

家庭学習で、山小屋で三日間すごすというテーマで、「やりたいこと」「そのための道具」を三つずつ考え、ロイロノートに提出するようにした。そうすることで、教師が事前に児童の実態を把握し、必要な支援や本時、話し合いをすることに焦点化して授業を行うことができるようにした。

④ 活用したツール クラウド型授業支援アプリ ロイロノート

⑤ 実践内容

今回の単元において、山小屋で三日間過ごすなら、「何をしたいか」「そのための必要な道具」についてロイロノートで表を作成し、宿題で考えてくるという活動を設定した。期限を設け、その日までに各家庭で行い、ロイロノート上に提出するというようにした。そうすることで、教師も事前に個人の考えを把握することができた。また、家庭でもタブレットを活用した家庭学習を行うことができ、この話題について家庭でも対話が生まれた。授業においても個人追求の時間を省くことができ、話し合いの時間を十分に確保することができた。

	やりたいこと	必要な道具	必要な道具
川遊び	釣り竿	バケツ	水でっぼう
料理	ライター	ナイフ	フライパン
虫取り	虫取り	虫かご	ハチスプレー

本時、ロイロノートにある思考ツール(ベン図)を活用して、話し合いを行った。事前に考えてきた考えを一人ひとりが発表し、それぞれの考えをベン図に移動させ、そこから、やりたいことを3つに絞っていく話し合いを行った。児童は、決めるための条件(自然と関わること・普段子供だけではできないこと)に合わせて、どの活動がふさわしいかをベン図に位置付けていった。

授業終末の振り返りもロイロノートにあるアンケート(記述あり)での提出を行った。その際、「考えを深めることができたか。」というアンケートを実施した際、24人中22人の児童ができたという回答をしていた。その理由として、「みんなで話し合うことができた。」「相談して決められた。」などの回答があり、本時のねらいに迫ることや思考を深めることができた。

⑤成果と課題(実践するときの留意点など)

○宿題にしたことで、家庭においても、タブレットを活用して対話が生まれた。また、事前に提出がされることで、児童の実態を把握し、授業においてどのような支援や声掛けが必要なのかを考えることができた。
△思考ツールの活用が発達の段階に合わず、ベン図を使いこなすことが困難であった。思考の可視化をしていくところまで意識が向かず、図を完成させることに意識が向いてしまった。